

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	国際学部
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 毎年度、自己評価委員会を設置し、教育研究上の自己点検・評価について審議する。	→1. 指標：自己評価委員会における審議(教育研究上の自己点検・評価について)回数 評価基準：4回実施した…評価A、3回…評価B、2回…評価C、1回以下…評価D		B	A	C	A
2. FD委員会を設置し、授業形態・方法の点検と改善等、教員の資質の維持向上について審議する。	→2. 指標：FD委員会における審議(教員の資質の維持向上について)回数 評価基準：4回実施した…評価A、3回…評価B、2回…評価C、1回以下…評価D		C	B	A	B
3. 毎年度、教授研究会を4回以上開催し、各自が自分の研究テーマを簡潔に発表し、質疑応答する。	→3. 指標：教授研究会の開催回数 評価基準：4回以上実施した…評価A、3回…評価B、2回…評価C、1回以下…評価D		A	A	D	A

☆

2011年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教授会にて自己評価委員会の設置し、その取り組みについて承認した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 国際学部の教育研究上の事項について、自己点検・評価を行うために、自己評価委員会を設置し、4回開催した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き、自己評価委員会を開催し、自己点検・評価を実施する。	☆
		その他	☆
			☆
目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教授会にてFD委員会を設置し、FDの取り組みについて承認した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 国際学部教員の資質の維持向上のために、FD委員会を3回開催し、FDの取り組みについて検討し実行した。またFD研修会を3回開催し、カリキュラム改訂・ナンバリングについて、ゼミ生の就職指導について(キャリアセンターとの意見交換)、基礎演習の見直し、卒論の縦覧の是非について検討した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き、FD委員会を開催し、FDの取り組みについて検討し、実行する。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際学部教員の研究会組織である国際学研究フォーラムの主催により、教授研究会を開催した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 国際学部専任教員の研究成果を確認し、向上させるために、教授研究会を4回実施した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き、研究成果の確認・向上をするため、教授研究会を実施する。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能なため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【国際学部】		単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	専任教員1人あたりの学生数 (ST比)	人	10.1	19.0	22.7	28.9	30.3	学部	
指標2	必修科目および選択必修科目に対する専任比率	専門教育	%	89.1	82.1	81.8	87.2	79.7	学部、センター、研究所
		教養教育	%	30.0	24.3	18.5	17.2	18.7	
指標3	教員組織における女性教員の比率	%	23.1	21.4	21.4	20.7	20.7	学部、センター、研究所	
指標4	本学出身の専任教員の構成比率	%	17.9	12.5	17.9	17.2	17.2	学部、センター、研究所	
指標5	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	11.6	11.2	12.1	12.7	12.7	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	8.0	8.2	8.6	9.4	10.6	
		講師	時間	18.2	17.0	17.0	20.0	17.0	
		助教	時間	—	—	—	—	—	